【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【公開番号】特開2008-289065(P2008-289065A)
【公開日】平成20年11月27日(2008.11.27)
【年通号数】公開・登録公報2008-047
【出願番号】特願2007-134267(P2007-134267)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/225　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/91　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　35/08　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　13/04　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｆ
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｅ
Ｈ０４Ｎ　5/91　Ｊ
Ｇ０３Ｂ　35/08
Ｈ０４Ｎ　13/04
Ｈ０４Ｎ　101:00

【手続補正書】
【提出日】平成22年9月8日(2010.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２】
前記記録手段に前記多視点画像を含む画像が記録されている場合において、前記画像の中から選択された所望の画像を消去する消去モードを設定する消去モード設定手段と、
前記消去モードが設定されたかどうかを検出する消去モード検出手段と、
前記消去モード検出手段により前記消去モードが検出された場合において、前記所望の画像が前記多視点画像である場合に、前記多視点画像の消去である旨の警告を行う警告手段と、
前記警告手段で警告を行った後で前記多視点画像の選択が決定された場合には、前記選択された多視点画像に設定された前記プロテクトを解除して消去する消去手段と、
を備えたことを特徴とする請求項１に記載の撮像装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３】
前記記録手段に前記多視点画像を含む画像が記録されている場合において、前記画像の中から選択された所望の画像を編集する編集モードを設定する編集モード設定手段と、
前記編集モードが設定されたかどうかを検出する編集モード検出手段と、
前記編集モード検出手段により前記編集モードが検出された場合において、前記所望の画像が前記多視点画像である場合に、前記多視点画像の編集である旨の警告を行う警告手

段と、
前記警告手段で警告を行った後で前記多視点画像の選択が決定された場合には、前記選択された多視点画像に設定された前記プロテクトを解除するプロテクト解除手段と、
前記プロテクト解除手段でプロテクトが解除された多視点画像を編集する編集手段と、
を備え、
前記記録手段は、前記編集手段で編集された多視点画像を記録媒体に記録し、前記プロテクト設定手段は、前記記録手段により記録される前記編集された多視点画像に対して、前記多視点画像が変更又は削除されないようなプロテクトを設定することを特徴とする請求項１又は２に記載の撮像装置。
【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
前記撮像手段は、
被写体像を結像する複数の光学系及び撮像素子を有する複数の撮像系と、
前記撮影モード切り替え手段により多視点画像撮影モードに切り替えられた場合には、前記複数の撮像系を駆動し、前記撮影モード切り替え手段により１視点画像撮影モードに切り替えられた場合には、１つの撮像系を駆動する駆動手段と、
前記駆動手段により前記撮像系の駆動が完了したかどうかを検出する駆動検出手段と、
を備え、
前記撮影モード検出手段で前記多視点画像撮影モードが検出され、かつ前記駆動検出手段で前記複数の撮像系が駆動していないことが検出された場合には、前記撮影モード切り替え手段は、前記多視点画像撮影モードから前記１視点画像撮影モードに切り替えを行うことを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の撮像装置。
【手続補正４】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項５】
被写体像を縦撮りする状態であるかどうかを検出する縦撮り検出手段を備え、
前記撮影モード切り替え手段により前記多視点画像撮影モードに切り替えられ、かつ前記縦撮り検出手段により被写体像を縦撮りする状態であることが検出された場合には、前記撮影モード切り替え手段は、前記多視点画像撮影モードから前記１視点画像撮影モードに切り替えることを特徴とする請求項１～４のいずれかに記載の撮像装置。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
請求項２に記載の撮像装置は、請求項１に記載の撮像装置において、前記記録手段に前記多視点画像を含む画像が記録されている場合において、前記画像の中から選択された所望の画像を消去する消去モードを設定する消去モード設定手段と、前記消去モードが設定されたかどうかを検出する消去モード検出手段と、前記消去モード検出手段により前記消去モードが検出された場合において、前記所望の画像が前記多視点画像である場合に、前記多視点画像の消去である旨の警告を行う警告手段と、前記警告手段で警告を行った後で前記多視点画像の選択が決定された場合には、前記選択された多視点画像に設定された前

記プロテクトを解除して消去する消去手段と、を備えたことを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
請求項２に記載の撮像装置によれば、記録手段に記録された多視点画像を含む画像の中から選択された所望の画像を消去する消去モードにおいて、多視点画像が選択された場合には警告を行う。警告後、多視点画像の選択が決定された場合には、多視点画像のプロテクトを解除して、画像を消去する。これにより、多視点画像の消去を実行する前に警告されるため、ユーザーが多視点画像を間違って消去することを防ぐことができる。例えば、プロテクトフラグにより多視点画像を読み出し禁止にしておけば、ユーザーは注意して別ファイル名で３Ｄ／多視点画像をコピーした後で編集を行うことができる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
請求項３に記載の撮像装置は、請求項１又は２に記載の撮像装置において、前記記録手段に前記多視点画像を含む画像が記録されている場合において、前記画像の中から選択された所望の画像を編集する編集モードを設定する編集モード設定手段と、前記編集モードが設定されたかどうかを検出する編集モード検出手段と、前記編集モード検出手段により前記編集モードが検出された場合において、前記所望の画像が前記多視点画像である場合に、前記多視点画像の編集である旨の警告を行う警告手段と、前記警告手段で警告を行った後で前記多視点画像の選択が決定された場合には、前記選択された多視点画像に設定された前記プロテクトを解除するプロテクト解除手段と、前記プロテクト解除手段でプロテクトが解除された多視点画像を編集する編集手段と、を備え、前記記録手段は、前記編集手段で編集された多視点画像を記録媒体に記録し、前記プロテクト設定手段は、前記記録手段により記録される前記編集された多視点画像に対して、前記多視点画像が変更又は削除されないようなプロテクトを設定することを特徴とする。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
請求項３に記載の撮像装置によれば、記録手段に記録された多視点画像を含む画像の中から選択された所望の画像を編集する編集モードにおいて、多視点画像が選択された場合には警告を行う。警告後、多視点画像の選択が決定された場合には、多視点画像のプロテクトを解除して、画像を編集する。編集された多視点画像を記録手段に記録し、多視点画像が変更又は削除されないようなプロテクトを設定する。これにより、多視点画像の編集を実行する前に警告されるため、ユーザーが多視点画像を間違って編集することを防ぐことができる。また、編集された画像はプロテクトされるため、編集された画像を適切に保護することができる。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００１６】
請求項４に記載の撮像装置は、請求項１～３のいずれかに記載の撮像装置において、前記撮像手段は、被写体像を結像する複数の光学系及び撮像素子を有する複数の撮像系と、前記撮影モード切り替え手段により多視点画像撮影モードに切り替えられた場合には、前記複数の撮像系を駆動し、前記撮影モード切り替え手段により１視点画像撮影モードに切り替えられた場合には、１つの撮像系を駆動する駆動手段と、前記駆動手段により前記撮像系の駆動が完了したかどうかを検出する駆動検出手段と、を備え、前記撮影モード検出手段で前記多視点画像撮影モードが検出され、かつ前記駆動検出手段で前記複数の撮像系が駆動していないことが検出された場合には、前記撮影モード切り替え手段は、前記多視点画像撮影モードから前記１視点画像撮影モードに切り替えを行うことを特徴とする。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
請求項４に記載の撮像装置によれば、多視点画像撮影モードに設定されている場合において、複数の撮影系が駆動しない場合、すなわち多視点画像が撮影できない場合には、多視点画像撮影モードから１視点画像撮影モードに切り替える。これにより、多視点画像が撮影できない場合には、自動的に２次元画像を撮影し、撮影された画像をプロテクトしないように設定することができる。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
請求項５に記載の撮像装置は、請求項１～４のいずれかに記載の撮像装置において、被写体像を縦撮りする状態であるかどうかを検出する縦撮り検出手段を備え、前記撮影モード切り替え手段により前記多視点画像撮影モードに切り替えられ、かつ前記縦撮り検出手段により被写体像を縦撮りする状態であることが検出された場合には、前記撮影モード切り替え手段は、前記多視点画像撮影モードから前記１視点画像撮影モードに切り替えることを特徴とする。
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
請求項５に記載の撮像装置によれば、多視点画像撮影モードに設定されている場合において、被写体像を縦撮りする状態である場合、すなわち多視点画像が撮影できない場合には、多視点画像撮影モードから１視点画像撮影モードに切り替える。これにより、多視点画像が撮影できない場合には、自動的に２次元画像を撮影し、撮影された画像をプロテクトしないように設定することができる